



2017年12月7日 本会議

神戸市会議員



岡田ゆうじ

自由民主党神戸市会議員団市政報告

2023. 7

No.47

新垂水図書館

多くの人との出会いが、その人の成長を促すように、様々な本との出会いは子どもの心を育て、子どもをより大きくします。豊かな読書体験が感性を磨き、表現力を高め、創造力をはぐくみ、人生をより深く生きる力を与えます。そしてこのような子どもの読書活動を支えるのが、図書館です。

しかし、垂水図書館の蔵書数は 10 万冊に満たず、市内にある市立図書の中でもドベの方。自習スペースもない1フロアだけの「図書室」です。垂水区民からは、垂水駅から垂水図書館に行かず、電車で明石駅まで行って、明石図書館を利用している、との声も多く寄せられていました。

そんな惨状を目の当たりにし、私は 2017 年の初当選の翌々月に開催された本会議の質疑で、「垂水の子ども達に図書と勉学の環境を」と市長・教育長に直談判しました。以来、私の政治家としての目標の一つが、垂水図書館の拡張・拡充でありました。



新垂水図書館のデザイン案

その後、「リノベーション・神戸」計画に、「新垂水図書館」の建設が、当初 2023 年開館予定が諸事情により 2025 年になりはしましたが、無事位置づけられ、準備が進んでいます。

蔵書数、垂水区民の生涯学習、子どもたちの学力の大幅な拡充・向上が実現します。1日も早い開館目指して、引き続き取り組んで参ります。

垂水図書館の充実・拡充について

○9番(岡田ゆうじ君) 垂水区は、市内で人口が2番目に多い区でありながら、垂水図書館の蔵書数は10万冊に満たない。市内にある市立図書館は11館ありますが、第8位——下から3番目であります。

そのため、垂水区民はどうしているかというところ、最近では、垂水駅から明石駅まで電車で行って、明石図書館を利用するケースがふえているということがあります。政令都市5大市・神戸の市民がほかの市に行かないと本が読めない——悲しい現状であります。

垂水図書館のさらなる充実が必要であると考えますが、御見解をお伺いします。



岡田ゆうじ

○教育長(雪村新之助君) 御指摘の垂水図書館でございますが、平成3年11月、JR垂水駅前のレバンテ垂水2番館に区役所等の公共施設とともに開設をいたしました。ただ、御指摘されましたように、貸出人数や貸出冊数の多さに比べまして、床面積等が狭いというような形は認識をしているところでございます。

御指摘されました垂水図書館を初めとする市内図書館の充実を図るためには、やはり規模を拡張する必要、機能を拡充する必要がございます。そのためには、駅前再開発や区役所移転、公共施設の建てかえ等の機会を捉まえて、今後、関係部局と協議・調整に取り組んでまいります。

その後、岡田ゆうじによる市長に対する2018年度予算要望、市議団通じての2019年度予算要望、2019年決算に対する要望等を経て…

実現 2025年「新垂水図書館」OPEN!



場所：垂水駅前東広場 東側臨時駐車場部分

開館：2025年7月頃(予定)

蔵書：約12万冊(現8万2千冊)

面積：約2,200㎡(現686㎡)

座席：約300席(現68席)

<設備>

2階：一般書閲覧室、飲食エリア、新聞雑誌コーナー

3階：児童書閲覧室、グループワーク室、自習室等

4階：セミナールーム、屋上広場

